

第8次山田町総合発展計画(基本構想)の概要

【基本構想(まちづくりの基本理念と目標)】

町民の皆さんと行政の協働によって、元気ある暮らしやすいふるさと山田町をつくり、育てていくため、これまで以上に、「まちづくりは人づくり」をより進め、過度な依存体質から抜け出し、「参画・協働するまちづくり」を実践しながら、自主・自立を発揮できるまちを目指し、次のように基本目標を定めます。

「自主・自立・協働」のまちづくり

— みんなで創る

ひとと産業が元気なまち

山田

【施策の大綱】

①地域の特性を生かした産業振興で元気創造をめざすまち

既存産業の活用による農林水産物の生産から加工・販売までを進め、食料生産基地としての存在感をアピールするとともに町内の生産物の地産地消に努め、グリーン・ツーリズムの展開を通じた消費地域の拡大につなげます。

②環境にやさしい快適な生活基盤の整備で元気創造をめざすまち

豊かな自然や歴史・文化とともに生きる暮らし方を実現する「山田らしい」生活環境を改善・創造していきます。

③健やかで、安心できる暮らしの実現で元気創造をめざすまち

健康づくりや疾病予防に努め、町民が長生きでき、生涯現役で楽しい人生をまっとうできる環境整備を、まちづくり全体の中で進めていきます。

④手をつなぎ、未来の芽をはぐくみ元気創造をめざすまち

学校や行政にだけ頼ることなく、家庭、地域が共に手を携えて育てあいながら、町の財産となるひとづくりを進めます。

⑤住民参加と協働で、元気創造、自立をめざすまち

「山田ならではの」誇れる暮らしを、家庭や地域から大切に育てていきます。また、町民同士が一人の人間として向き合いながら、地域とのかかわりを深めていきます。

⑥身の丈にあった、健全な行財政で元気創造をめざすまち

「身の丈にあった」財政運営をゆるぎないものとして、限られた財源を有効に活用し、最小の経費で最大の効果を上げるため、事務の合理化・効率化を図るとともに、議会と連携し、町民、地域、行政の役割分担を明確にして、町民本位のまちづくりを目指します。



「自主・自立・協働」のまちづくりを目指し、町の新しい計画がスタートします(昨年の町民体育祭の様子)

十二月定例会は、十二月七日から九日まで三日間の会期で開かれました。一般質問(七〇〜七六に掲載)には十一人が登壇し、新年度予算編成方針や、防災対策、産業振興策など幅広く町政について質問しました。町からは、向こう十年間の町づくりの指針となる第8次町総合発展計画基本構想や豊間根保育園の民営化に伴う条例改正、平成十七年度の補正予算など、議案二十八件が提案され、審議の結果すべて原案と可決しました。最終日には、採択された請願に伴う議員発議の意見書などを可決し、三日間の会期を閉じました。

町総合発展計画は、平成十八年度を初年度とし、十年後の二十七年を目標年次とした本町が進むべき方向とこれを達成するための施策を示したものです。計画は骨格となる「基本構想」とそれを具体化した「基本計画」、年度別の計画を定めた「実施計画」で構成されており、「基本構想」については、議会の議決が必要とされています。

基本構想では、町民と行政の協働により、元気ある暮らしやすいふるさと山田町をつくり、育てていくため、これまで以上に「参画・協働するまちづくり」を実践し、自主・自立を発揮できる町を目指して、六項目の施策を掲げています。基本構想の推進については▽地方分権型社会にふさわしい住民と行政の協働のしくみの強化▽効率的で分かりやすい行財政運営▽関係自治体との相互連携による広域行政の推進——で町政を展開するとしています。議会では、十一月二十八日の全員協議会での事前協議を経ての審議の結果、原案と可決されました。

12月定例会のあらまし

「自主・自立・協働」のまちづくり — みんなで創る ひとと産業が元気なまち 山田 — 第8次発展計画の基本構想決まる



賀春

2006年

ごあいさつ

山田町議会議長 佐々木 良 一

新年明けましておめでとうございます。町民の皆さんは、健康で、希望に満ちた新春をお迎えのことと、心からお喜び申し上げます。

昨年中は、皆さんの力強いご支援によりまして議員活動に専念でき、本町の発展に微力を尽くすことができましたことに対し、議会を代表して厚くお礼申し上げます。

さて、本町の昨年を振り返りますと、10月には合併50周年記念式典が挙行され、町民の皆さんとともに、新しい山田町の創造への決意を新たにいたしましたところであります。次に、産業経済面では、農業は米が好天に恵まれて平年作を上回り、林産物のマツタケは、数年ぶりの豊作となりましたが、水産業は、秋サケ価格の回復もエチゼンクラゲに水を差され、商工業は、一部企業を除き長引く景気低迷から脱し切れず、雇用情勢を含め回復は見られなかったようであります。

町の財政は年々厳しさを増してきており、国の来年度一般会計予算案によると、本年度比で約9,900億円の地方交付税の縮減が示され、さらに厳しい財政運営を余儀なくされるものと懸念しているところであります。

新しい年、平成18年の4月からは本町の新しいまちづくりを進めていくための「第8次山田町総合発展計画」がスタート、さらには、現在建設中の県立山田病院も、11月には診療が開始される予定であります。

今年こそ、何とか景気が回復し、明るさの見える年となるよう、議会としても、これまで以上に本町の現実を直視し、町民福祉の向上のため、執行部とともに創意と工夫を凝らしながら、その使命を果たしていきたいと思っております。

本年も一層のご支援とご協力をお願い申し上げ、皆さんのご健勝とご多幸を祈念し、議会を代表してのあいさつと致します。

現実を直視し町民福祉の向上を